

2016年度活動報告（2016年12月31日まで）

定例総会

- ・2016年6月18日（土） 専修大学神田校舎1号館 8B 会議室

講演会

- ・2016年6月18日（土） 専修大学神田校舎1号館 8B 会議室

テーマ「エメ・セゼールの演劇言語」

講師：立花英裕（早稲田大学）

- ・2016年10月2日（日） 専修大学神田校舎1号館 7A 会議室

テーマ「『繻子の靴』（P. クローデル）上演をめぐって～翻訳・構成・演出の渡邊守章先生にお聞きする」

話し手：渡邊守章（演出家・東京大学名誉教授・京都造形芸術大学）

研究会

- ・2016年9月15日（木） アトリエ春風舎
テーマ「異文化間の共同制作の実際：『MONTAGNE / 山』の日仏公演をめぐって：河村竜也氏（ホエイ、青年団）公開インタビュー」

（観客発信メディアWLとの共催）

ゲスト：トマ・キヤルデ（演出家）ほか

聞き手：片山幹生（早稲田大学）

通訳：平野暁人

- ・2016年10月20日（木） 室伏鴻アーカイブカフェ SHY

テーマ「進化するフィリップ・ドゥクフレ——これまでの活動の軌跡から『わたしは真悟』まで」

スピーカー：越智雄磨（早稲田大学演劇博物館）、篠田麻鼓（ホリプロ）

編集後記

復刊第7号は、なんとか総会に間に合いました。当初は悠々間に合ったのですが、当協会の副会長の佐伯隆幸先生が2017年1月21日に御逝去なさったこともあり、総会直前のぎりぎりの発刊になりました。まさに「巨星墜つ」で、日本の演劇界は大きな存在を失ってしまいました。日仏演劇協会も、一時停滞しこのままでは存在意義も失われるのではという状態になっていた時期がありましたが、佐伯先生がいろいろご尽力くださり、なんとか活動を再開することができました。とりわけ『演劇学の教科書』（国書刊行会、2009年）、《コレクション現代フランス語圏演劇》（れんが書房新社、2010-2012年、全16巻）は先生がいなければ実現できなかったものです。今後、先生の精緻な分析とあの毒舌を耳にしたり、目にしたりすることができないと思うと寂しい限りです。先生の残された著作を何度も読み返すしかありません。先生、ご苦労様でした。安らかにお休みください。

当協会の活動は活動報告に記してありますが、2016年度には総会以降に研究会を二度催し、2017年に入ってから2月と3月に研究会を催しています。佐伯先生の薫陶宜しく当協会も徐々に活動を増やしていっています（詳しくは当協会のホームページ及びブログをご覧ください）。

（さ）

訂正とお詫び

会報復刊6号（33ページ）およびお送りしました定例総会の報告書（議事録1枚目）におきまして、シンポジウム登壇者の坂原先生のお名前を、「真理」と表記しておりました。正しくは「真里」となります。また、ご所属を「早稲田大学」と記しましたが、正しくは「青山学院大学、日本赤十字看護大学」となります。謹んで訂正をさせていただくとともに、坂原先生およびご関係のみなさまにご迷惑をおかけしましたことを、深くお詫び申し上げます。
（日仏演劇協会 事務局）